

小さいまちだからこそ、できることがある

スマートシティへの挑戦

和歌山県有田市

経営管理部総務課デジタル推進室

長岡 賢紀

INDEX

1. 有田市ってどんなところ？
2. スマートシティに取り組むようになったきっかけは？
3. なぜスマートシティに取り組むの？
4. どんな体制で進めているの？
5. どんな取組をしているの？

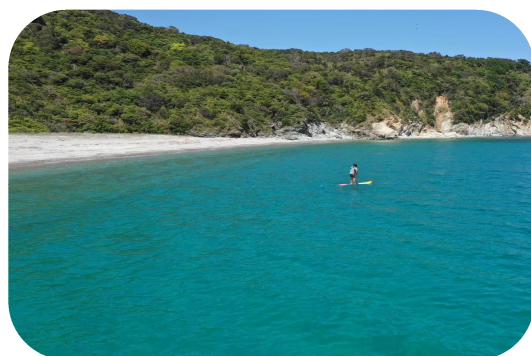


有田市のデータ

面積：36.83km²

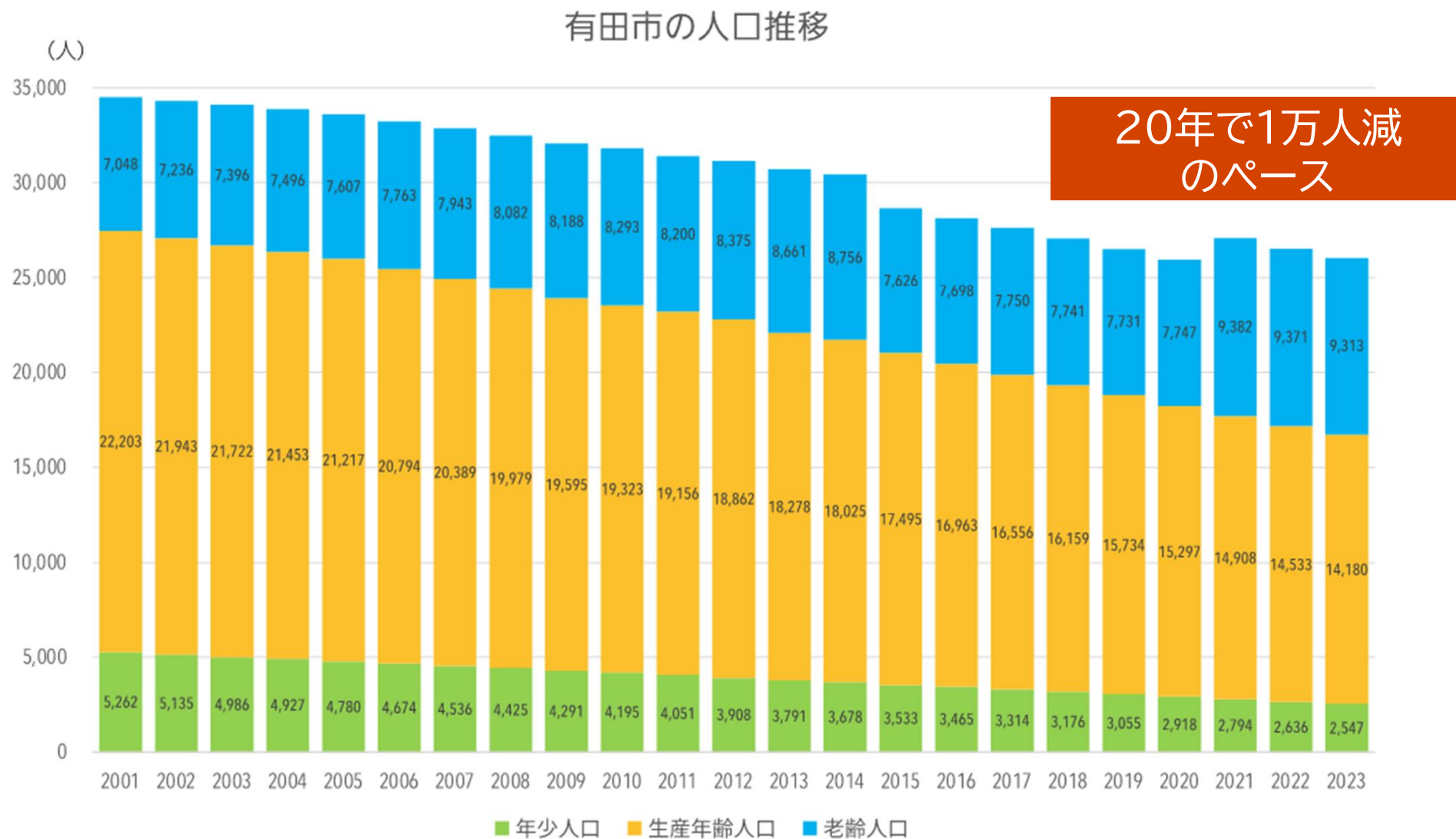
人口：25,832人

高齢人口比率：34.5%(R3)



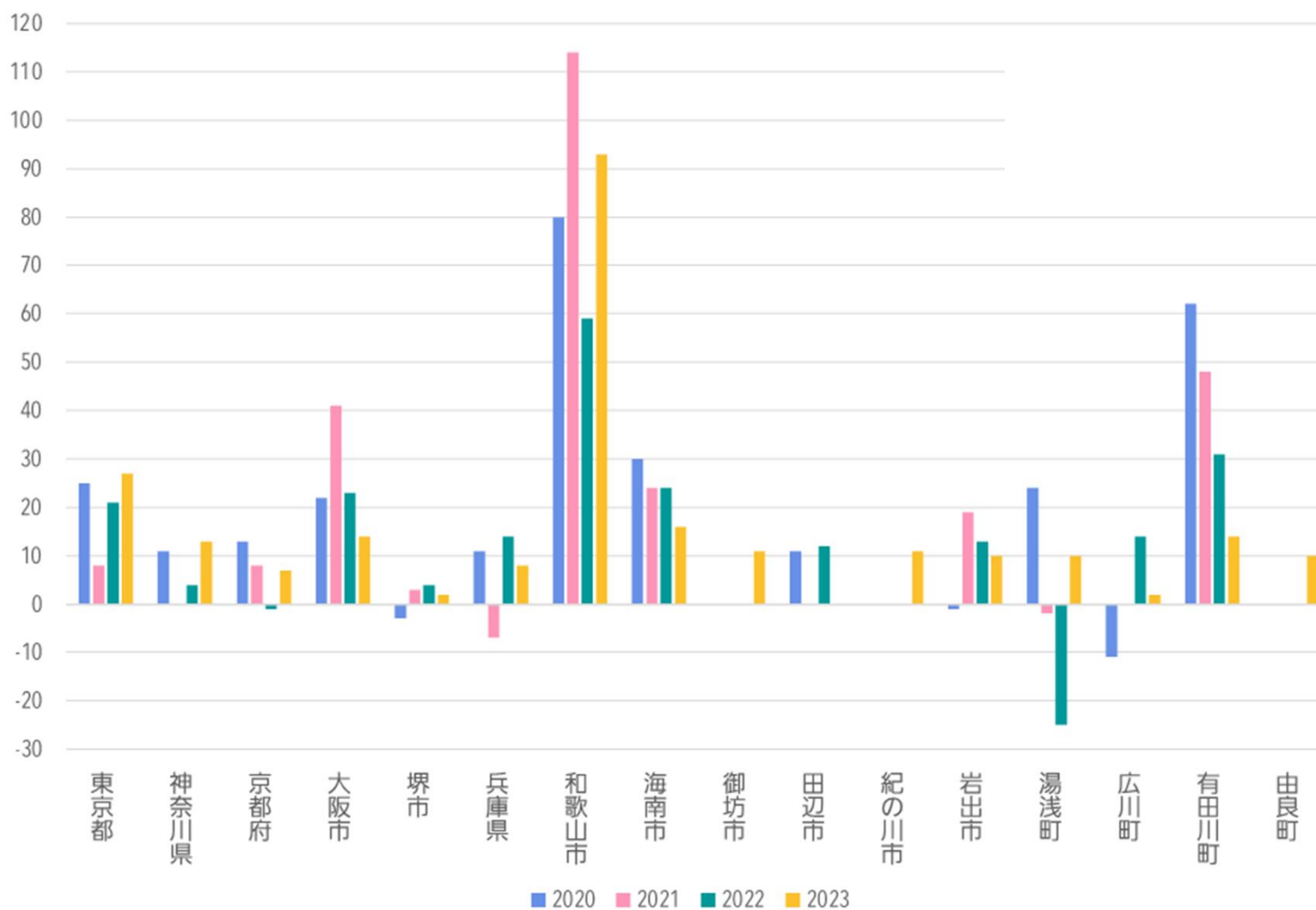
いいもの、いいところ、たくさんあります！！

いいところなんだけど……
人口は凄まじいペースで減っている



減った人口は何処へ？
県内の都市部と隣町へ流出している
原因は「都市への憧れ」ではなく、「住みやすさ」？

住民台帳移動状況報告の推移(転出超過)2020-2023



有田市のDXの変遷

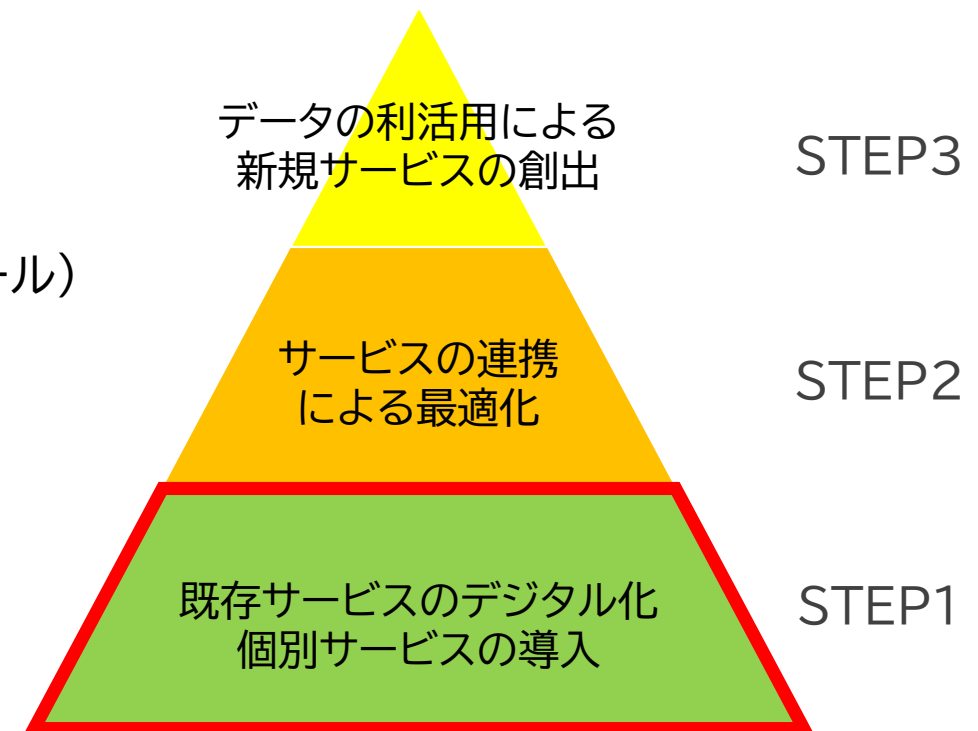
年月	市の動き
R3.4	「 デジタル化推進PT 」結成(「書面主義」「押印原則」「対面主義」の抜本的な見直し)
R3.5～6	「 手続のオンライン化 」を優先的に推進していく方針を決定
R4.1～2	デジタル田園都市国家構想推進交付金(TYPE1)への応募 (デジタルツールを活用した水道の開栓に係るオンライン申請の導入) ※採択
R4.7	有田市CIO補佐官 を迎える
R4.8	デジタル化リーダーを対象としたDX推進研修を実施
R4.10	沖縄県浦添市への視察
R5.2	会津若松市への視察 デジタル田園都市国家構想交付金TYPE1への応募(観光ポータル、市民ポータル) ※採択
R5.4	総務省「地域課題解決のためのスマートシティ推進事業」への応募(都市OS) ※採択
R5.5	有田市DX推進計画を策定
R6.1	有田市スマートシティ推進協議会設立
R6.2	都市OS・市民ポータル運用開始
R6.3	観光ポータル運用開始
R6.4	総務省事業「地域デジタル基盤活用推進事業(推進体制構築支援)」への応募 ※採択 総務省事業「地域課題解決のためのスマートシティ推進事業」への応募 ※採択 スマートシティの推進に関する連携協定の締結 (有田市、有田市スマートシティ推進協議会、クロスポイント・コンサルティング(株))

当市のデジタル活用に関する現況を調べてみると…

STEP1の既存サービスのデジタル化・個別サービスの導入については、他市町村と比較してある程度進んでいると考えられる。
(特に教育分野)

- ・防災アプリ
- ・健康増進アプリ(グッピーヘルスケア)
- ・母子手帳アプリ(母子モ)
- ・Google Workspace(教育コミュニケーションツール)
- ・学校連絡アプリ(すぐーる)
- ・プログラミング教育
- ・保育所管理システム(コドモン)
- ・統合型、公開型GIS など

デジタル田園都市国家構想



意外と進んでるじゃん！

でも各部署がバラバラにアプリを運用している…

このままで良いのだろうか…

松村さんとの協議・先進自治体への視察を通じて・・・

視察先	学んだこと
沖縄県浦添市	・行政の「書面主義」「対面主義」による住民への負担 ・デジタル人材の育成
福島県会津若松市	・スマートシティがまちづくりにもたらす効果 ・行政が保有する個人データの外部連携

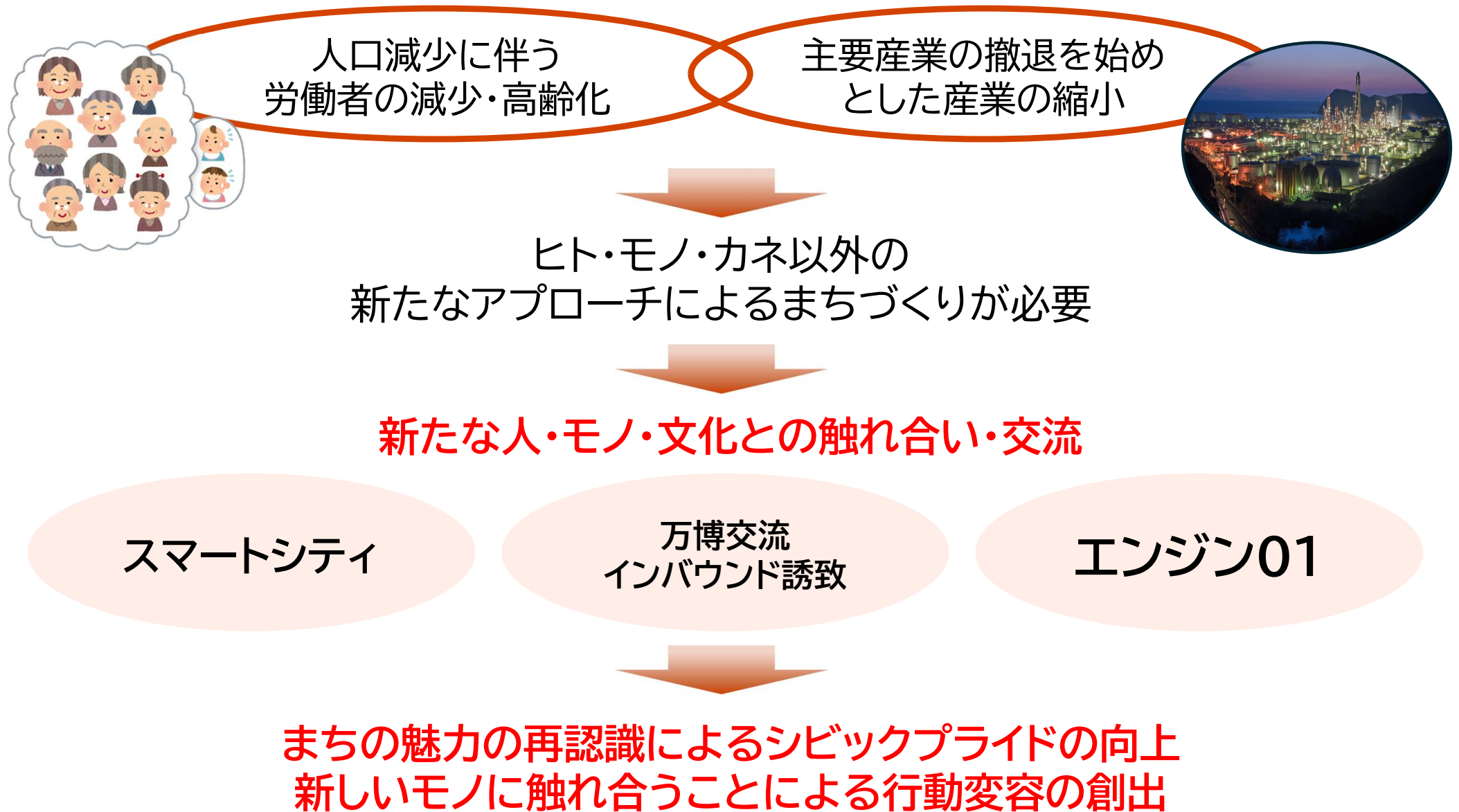


住民の生活様式の多様化・人口減少が進むなかで、行政目線(供給サイド)の考え方から、
住民目線(需要サイド)の考え方にシフトしていく必要があるのではないか。

これから様々なサービスがデジタル化されるなかで、住民目線で考えたときに、
横連携できるような基盤と体制が必要になるのではないか。

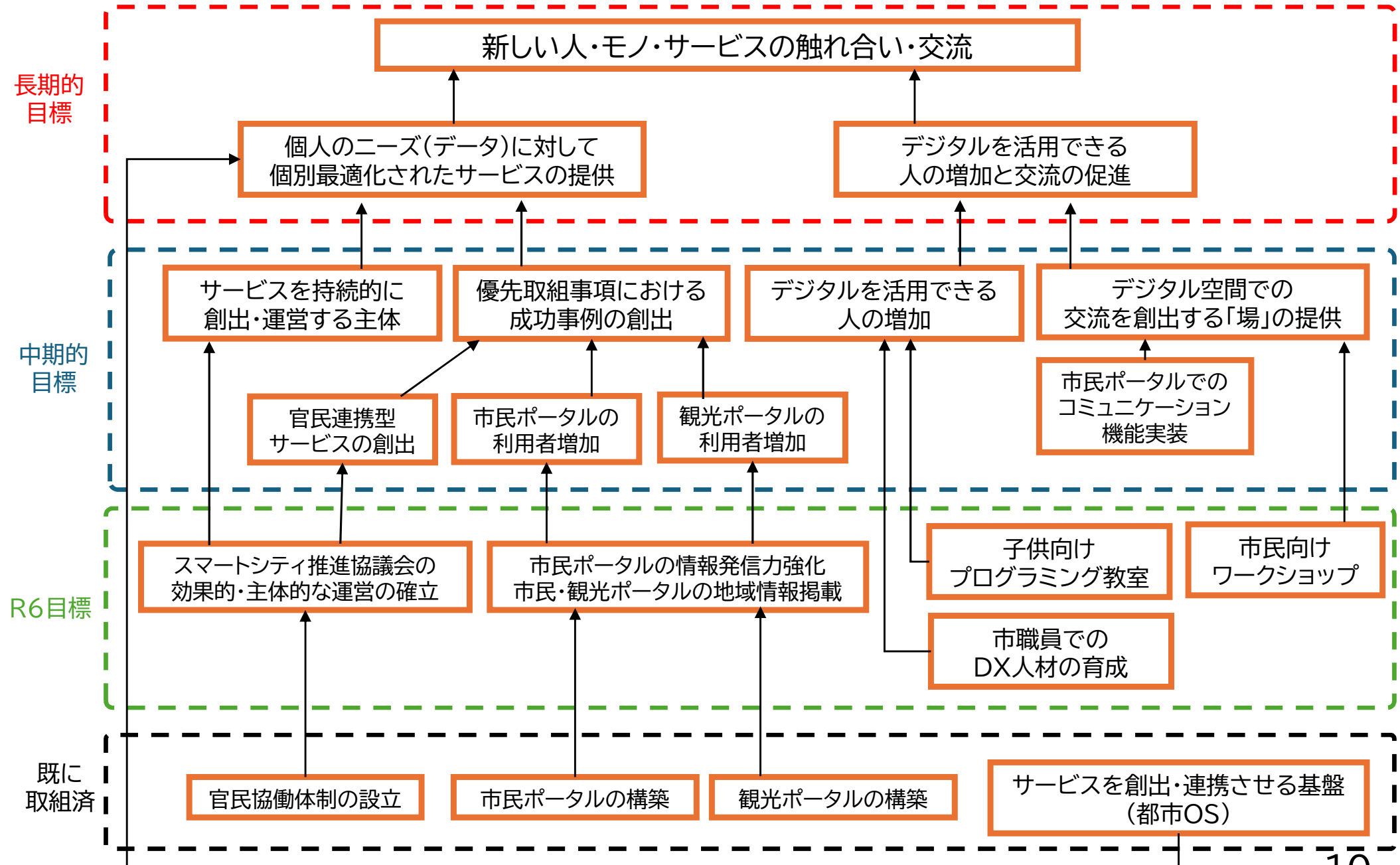
人口減少や産業縮小など、様々な地域課題が山積するなかで、
「デジタル」という新しい観点から解決策を考える必要があるのではないか。

主要政策の一部として



なぜスマートシティに取り組むの？

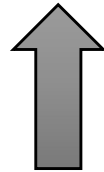
スマートシティを実現するためには・・・



スマートシティの要素を含めた有田市DX推進計画
「実装計画」ではなく、「**目指す将来像**」に**重点**をおいて策定

より便利で可能性あふれる未来の実現

住民サービスを受けるための手続等に
要する時間や移動に係るコストを還元



市民に「時間」を返す
住民サービスのデジタル化

行政手続のオンライン化
行政情報の発信
行政サービスのデジタル化及びサービス間連携
デジタルデバイド対策

自治体DX

市民や事業者が自らデジタル技術を
活用し、新たな価値の創出に挑戦



デジタル技術による
新たな価値の創出と
デジタル人材の育成

デジタルプラットフォーム(都市OS・市民ポータル)の整備
産業間連携による地域課題の解決
デジタル人材の育成

地域社会DX
(スマートシティ)

スマートシティ推進組織



庁内体制

- 地域課題の把握と集約
- 地域社会DXに対する支援
 - 体制構築支援
 - 財政的支援
- データ連携基盤の運営管理
- 自治体DXの推進

連携



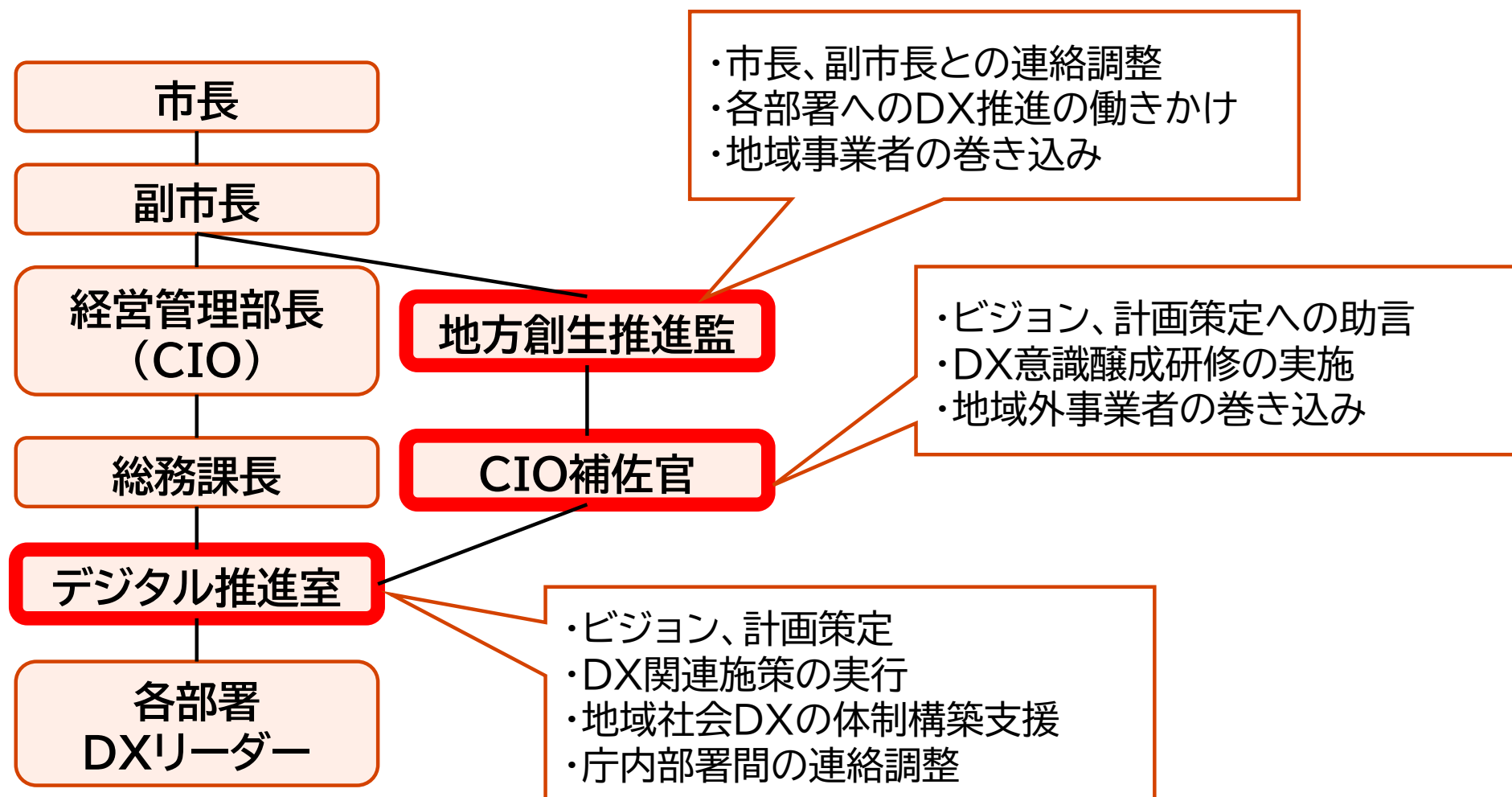
庁外体制

- 地域課題を解決する
デジタルサービスの企画運営
- 地域社会DXに対する
住民の理解度向上

行政は、行政にしかできないことを

アイデアを要するものや
地域への落とし込みは民の力を

スマートシティ推進組織(庁内体制)



スマートシティ推進組織(庁外体制)

スマートシティの取組に関心のある地域事業者を市が公募。

その結果、**地域で新たなビジネスを興そうとしている方々が集結。**

現在は、ヘルスケア・観光交通・DX社会基盤(人材育成)のワーキンググループに分かれて事業を検討中。



役職	氏名(敬称略)
会長	(株)サカモト 坂本 孝利
副会長	BIG SMILE COMMUNITY 古川 浩朗
事務局長	クロスポイント・コンサルティング(株) 川根 金栄
監査	合同会社Snow Style 渡邊 靖雄
幹事	(株)グリスタ 斎藤 利
	(株)まちタグ 小川 愛哉
	(株)Farmer's Manager 吉田 亮
	クロスポイント・コンサルティング(株) 松村 俊英

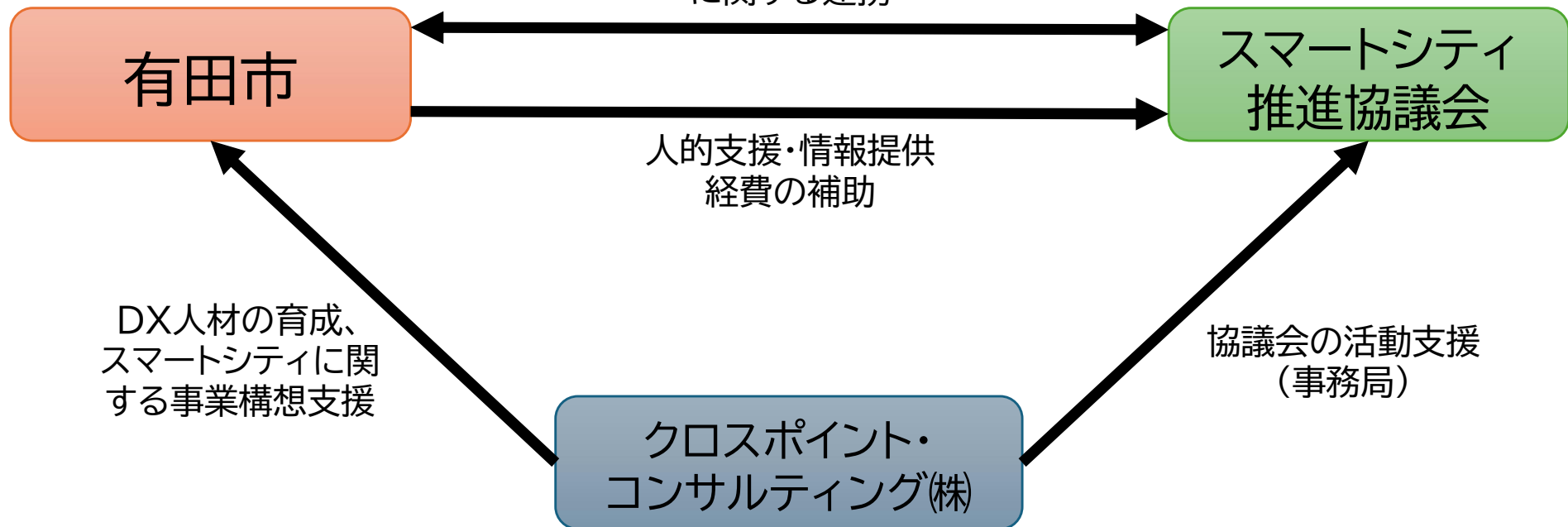
スマートシティ推進組織(庁外体制)

官民連携で推進していくための協定を締結し、連携体制を構築

- ・データ連携基盤(都市OS)の維持管理
- ・協議会の活動支援
- ・行政サービスにおけるスマートシティの推進

スマートシティ事業
に関する連携

- ・民間のノウハウを活用したスマートシティの推進
- ・スマートシティへの市民理解向上



- ・協議会の持続的な運営を実現するためのノウハウ提供
- ・スマートシティの取組を広げるための他者の巻き込み

有田市スマートシティ推進協議会(CoDA)での取組 【ヘルスケアWG】

※検討中事業であるため
他への配布禁止

市民ポータルサイト「つながるありだ」と「SIRU+ (シルタス) アプリ」を連携させることで、市民の健康状態を可視化し、データに基づいたより具体的な健康をサポートする取り組みを行います。

SIRU+は、家族構成等や提携スーパーのポイントカードをアプリに登録し、普段通りに買い物するだけで、購買データから家族の栄養状態を可視化し、栄養バランスが整うための食材提案を行います。

市民はSIRU+をダウンロードし、市内スーパーで買い物をしていただくと、購入した食材がSIRU+に自動で登録され、栄養状態を把握できます。将来的には、つながるありだにログインし、SIRU+と電子申請サービスの連携を承認すると、電子申請サービスからマイナンバーカードを活用して市に栄養情報を提出することができます。電子申請サービスが連携されることによって、市民は栄養情報を市に安全に送付することが可能です。

概要

- ・健康増進や介護予防に関する各種教室やアプリ運用の取組を行なっているが、その効果を測定することが難しい。
- ・市民全体の健康増進・介護予防をはかるためには、関心の低い層へのアプローチが必要。
- ・有田市の国保会計においては一人当たりの医療費が年々増加。

あらゆる人が使いやすい・見やすい個別の健康情報の見える化による行動変容が必要。

スーパーの購買データを活用した食事管理アプリ「SIRU+(シルタス)」

アプリ特徴 頑張らなくてもいい食事管理アプリ

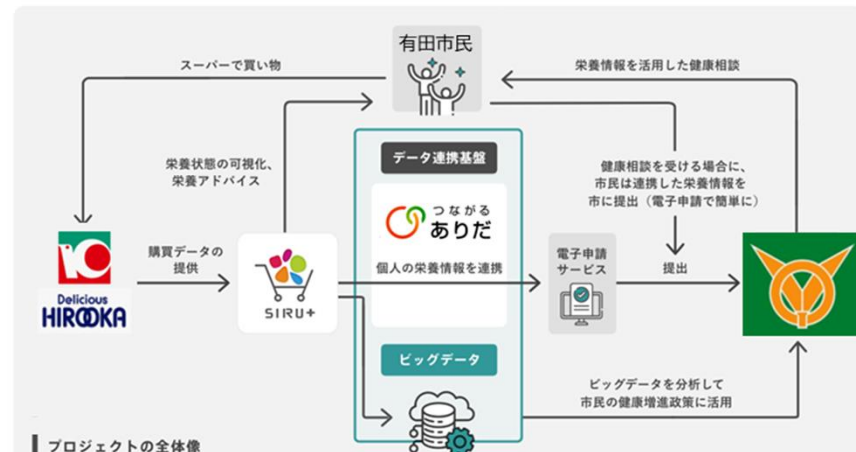
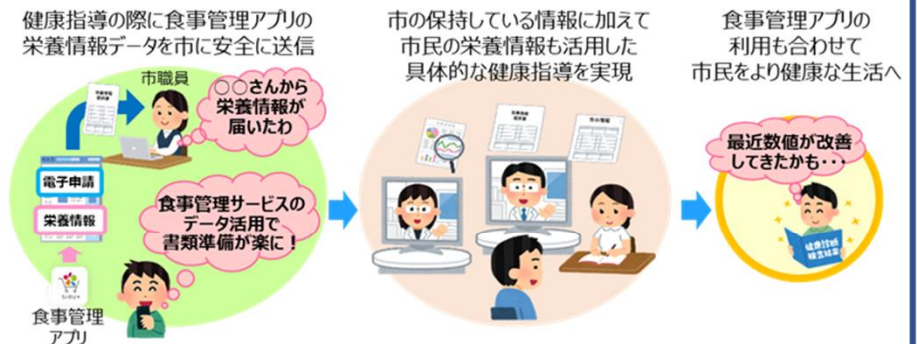
自動化：スーパーのポイントカードやアプリと連携することで購買する毎に自動連携され記録不要。

最適化：買い物から個人や家庭ごとの栄養傾向を分析。不足しがちな栄養を補う最適な買い物物を提案。



将来構想

食事管理アプリの栄養情報データの活用例



有田市スマートシティ推進協議会(CoDA)での取組 【ヘルスケアWG】

※検討中事業であるため
他への配布禁止

次世代ヘルスケアサービスの一つである「遺伝子検査による体質情報の分析」を活用し、一人一人の体質に合わせた健康プログラムの提供を目指す。健康プログラムは「フレイル予防」「生活習慣病予防」「スポーツトレーニング」の3分野に分け、年代に応じたサービス提供を目指す。遺伝子検査は「株グリスタ」、検査結果の分析・プログラム策定は「和歌山医療スポーツ専門学校」、プログラムの実践は「BIG SMILE PARK」と連携。将来的には、健康管理アプリ(グッピーヘルスケア)や食事管理アプリ(SIRU+)とのサービス連携を実現し、体質情報の潜在的データと日々の健康管理の動的データを組み合わせ、より個別最適化されたヘルスケアサービスを目指す。R7年度は実証実験として、和歌山医療スポーツ専門学校及びBIG SMILE PARKと連携し、検査実績を増やしてサービス実現のためのノウハウを蓄積する。

概要

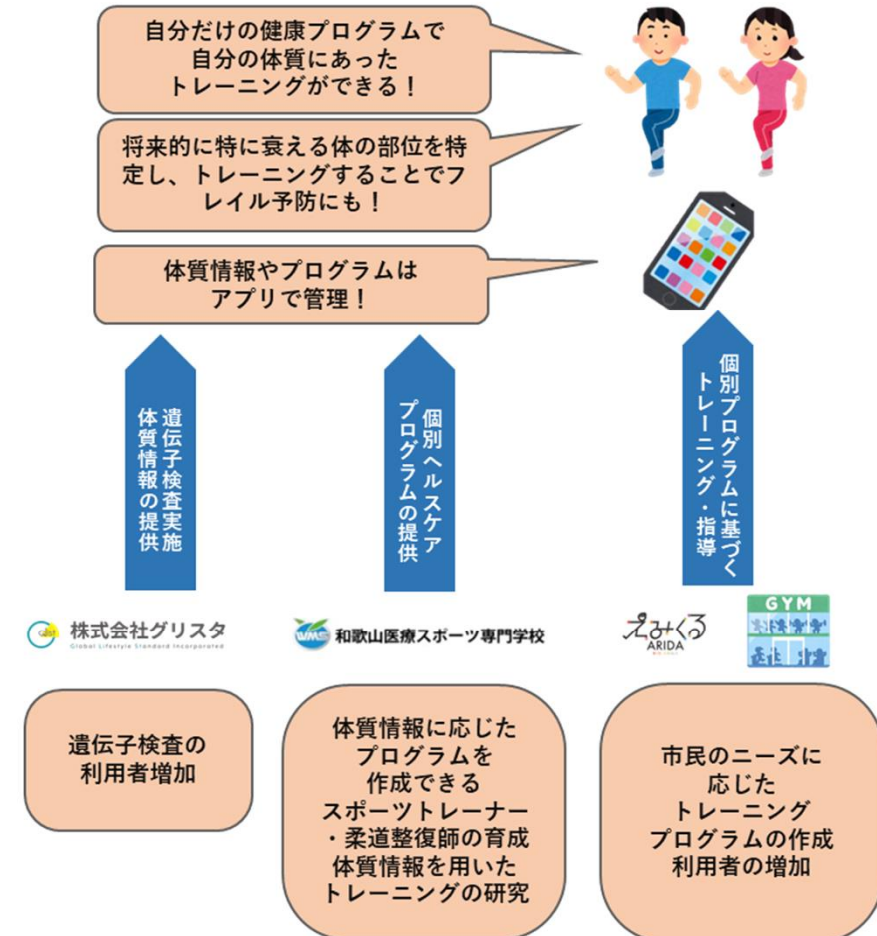
- ・健康増進や介護予防に関する各種教室やアプリ運用の取組を行なっているが、一人一人の体質に合わせたものを実施することでより効果的な取組になる。
- ・市民全体の健康増進・介護予防をはかるためには、関心のない層へのアプローチが必要。

あらゆる人が使いやすい・見やすい個別の健康情報の見える化による行動変容が必要。

IDENS[®]L 御社専用遺伝子キットの開発による個別化ヘルスケアを実現するための日本唯一の業務用遺伝子サービスです



将来構想



有田市スマートシティ推進協議会(CoDA)での取組 【DX社会基盤WG】

「三世代デジタル交流DAY」の開催

デジタル人材の育成・デジタルデバйд対策のため、子供世代・親世代・高齢者世代の方が気軽にデジタルに触れる機会をつくるためのイベント。
親子向けプログラミング教室(CoderDojo)とスマホ教室を同時開催し、デジタルを通じた世代間交流を促す。
9月・10月に開催し、親子6組・高齢者約15名に参加いただいた。



デジタルって何？
楽しく知ろう・触れよう・学ぼう
子ども・親・お年寄りが楽しくデジタルに触れる一日

DX DAY
**三世代
デジタル交流DAY**

2024.10.5(土) 10:00~12:00

開催場所 **箕島公民館**

参加無料
※事前申し込みあり
予約は
二次元コードorTEL

親子さん向け
SNS相談室
あります！

イベント情報

先着 5名
プログラミングコミュニティ
CoderDojo 和歌山有田
親子で好きな
ゲーム・アニメを作ろう！
ポケモンなどのキャラクターを使
って、簡単なゲームを自由に作っ
てみませんか？
【対象年齢】
小学1年生～中学3年生
【持ち物】
パソコン(Wi-Fi接続可)
※おうちにパソコンがない方は
事前にご相談ください。

先着 10名
アクセス
スマホ教室
電源の入れ方～LINEの使い
方までスマホ初めの方の方
に幅広くサポートします！
【持ち物】
スマートフォン
※駐車場に限りがあります。
自転車等でお越しください。

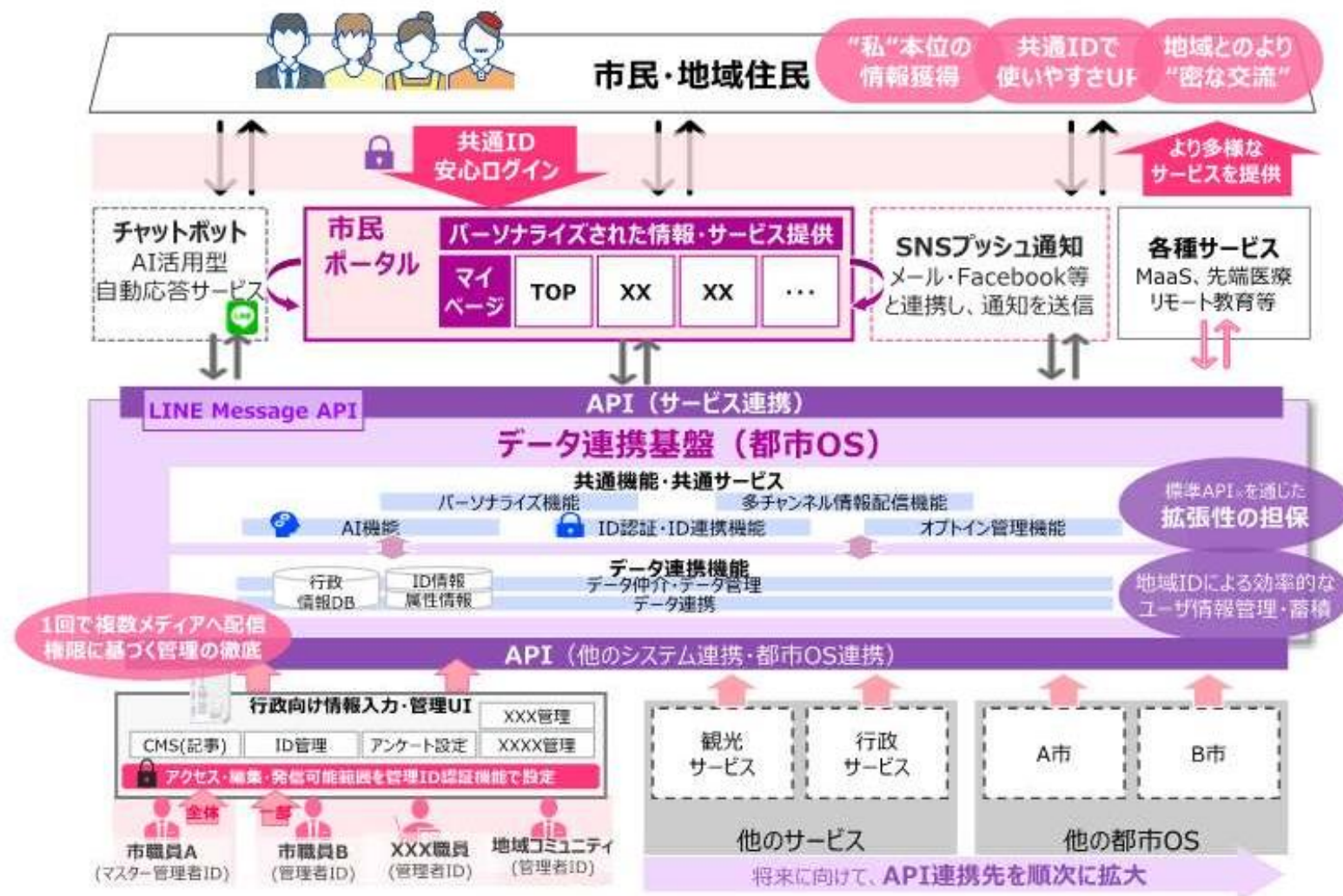
プログラミングソフト
Scratch(スクラッチ)
のご紹介

主催：有田市スマートシティ推進協議会(CoDA)
協力：有田市社会福祉協議会 後援：有田市
080-2561-7394
(平日10:00~15:00)
coda001@smart-arida.org

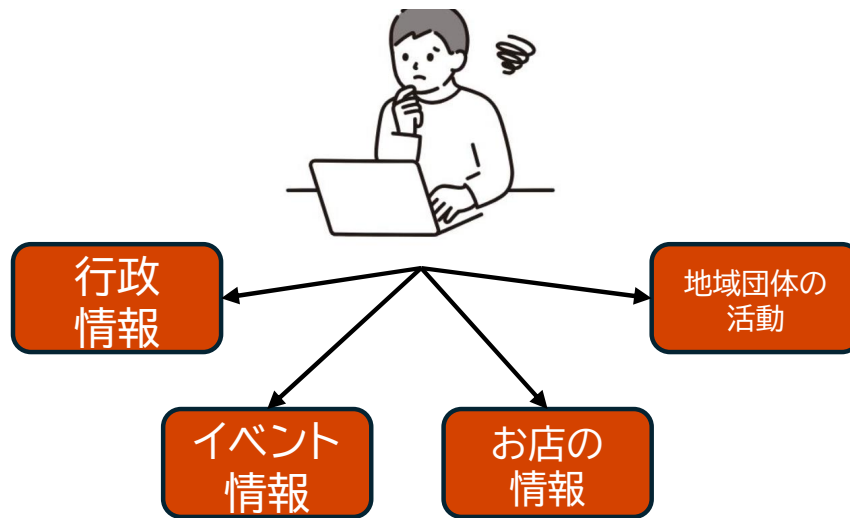


都市OS(データ連携基盤)の構築

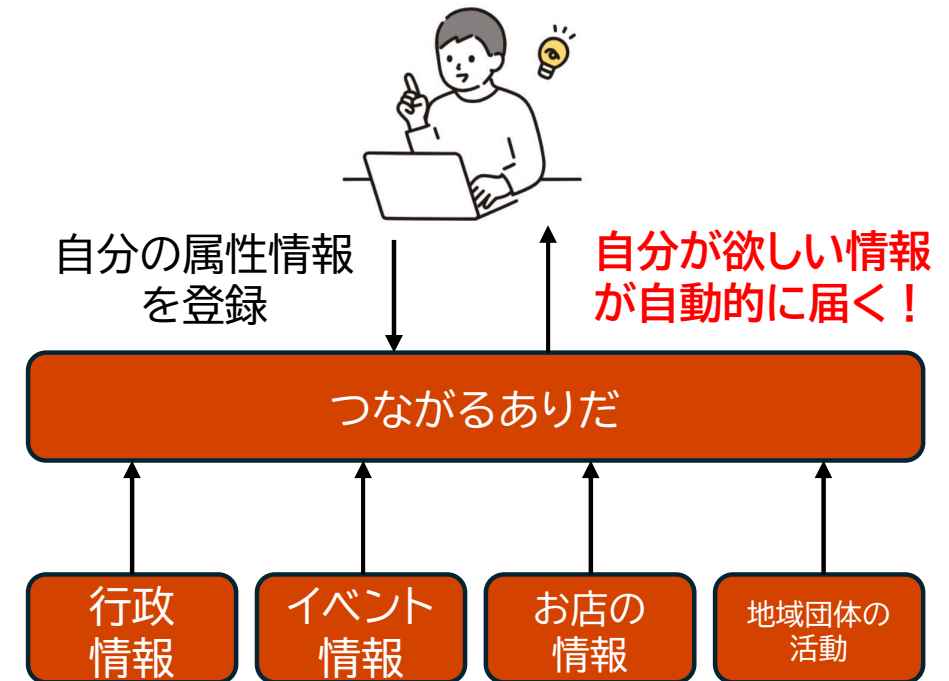
1つのIDで様々なサービスが利用できるように各サービス間のデータ連携(API連携)を可能とする基盤。サービス利用に必要なデータは、オプトインに基づき連携させることで、情報登録の手間省力化や新たなサービスの創出を可能とする。



市民ポータルサイト「つながるありだ」の構築



自分が欲しい情報は、インターネット等で自分で調べて取得する必要がある。



- ・官民間わす、市民の方々の**生活に必要な情報・プラスとなる情報を発信！**
 - ・将来的には**様々なサービスと連携**させ、より利用価値の高いサービスに進化！
- ⇒デジタル空間上で**市・市民・市内事業者がつながり、交流できる場所の実現！**

庁内デジタル人材の育成

DX意識醸成研修

先進的にDXに取り組んでいる自治体職員を講師に招き、**住民から見た行政サービスの不便さ・理不尽さ**について説いていただいた。

スマートシティ基礎講座

スマートシティに関する先進的な取組事例を学ぶとともに、地域課題に対するデジタルの活用アイデアを創出するワークショップを実施。

サービスデザイン研修

利用者(市民)目線に立ったサービス考案を行なうことができる職員を育成するため、サービスデザインの基礎的な知識を習得する研修を実施。

PCお悩み相談会 ～オフィスサロン～

エクセルや庁内システムなど、PC業務に悩みを抱える職員が集まり、デジ室職員と一緒に解決していく場をつくった。現在も月1～2回のペースで開催中。



【参考】自治体DXの推進 ※抜粋

ワンストップ窓口

窓口改革を目的として、手続きのオンライン化を見据えたワンストップ窓口を開始

オンライン申請

電子申請システムを導入し、あらゆる手続・申込をオンライン化できる環境を整備

GIS

庁内用・公開用GISを導入し、地図作成の効率化や来庁者の削減を実現

防災アプリ

防災行政無線の情報をアプリで閲覧・再生できるアプリを導入

母子手帳アプリ

予防接種予診票をアプリで入力し医療機関にオンラインで提出できる仕組み

学校連絡アプリ・保育所連絡アプリ

出欠連絡や学校・保育所からのお知らせ確認をアプリからできる環境を整備

取組みのまとめとこれからの課題

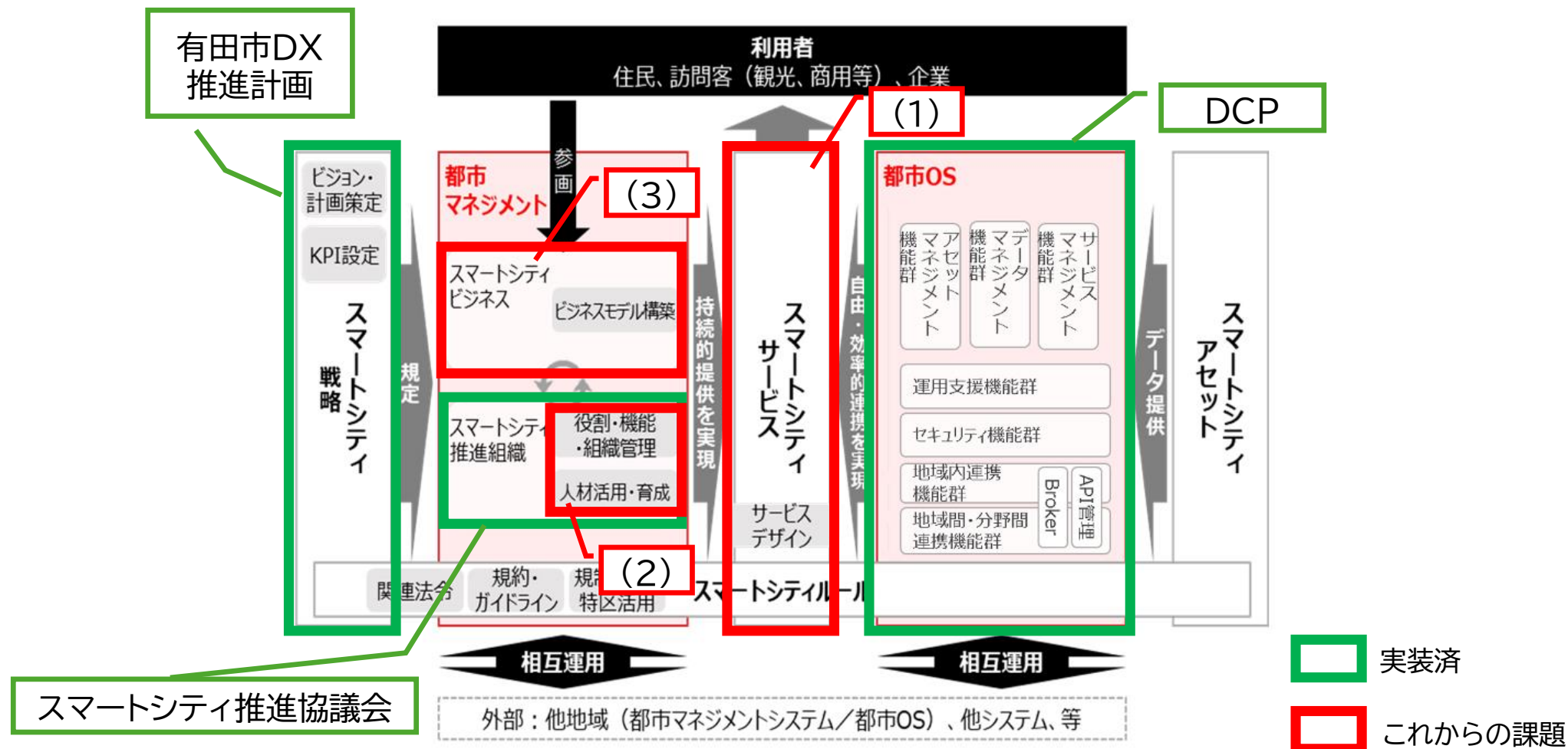


図 2.2-3 スマートシティリファレンスアーキテクチャの全体像

課題

- (1) スマートシティサービスの創出及びサービス連携による深化
- (2) スマートシティ推進組織である有田市スマートシティ推進協議会の効果的・効率的な運営方法の確立
- (3) スマートシティの取組の持続性を確保するためのビジネスモデルの確立

課題解決に向けた令和6年度の取組

総務省事業「地域デジタル基盤活用推進事業(推進体制構築支援)」の活用

地域社会DXを進めるための自治体職員のノウハウを蓄積するための伴走支援事業
和歌山県とともに取り組み、当市のノウハウを県内自治体に横展開していくことを目指す。

都市OSと既存アプリの連携事業

既に導入しているアプリと都市OSを連携させ、共通IDでの認証を可能とさせる事業
今年度は、電子母子手帳アプリ・市公式LINE・市HPとの連携を予定

有田市スマートシティ推進協議会の活動支援

ヘルスケア・観光交通・DX社会基盤(人材育成)の3つのWGでサービスを検討
民のアイデアを具体化できるよう、関係者と調整をはかりながら、実装を目指す。
都市OS上で民が運営するサービスを実装することで、都市OSの利用料をサービス事業者から貰い、それを都市OSの運用コストの一部とすることを目指す。

**動き出すと、色んな方々が手を差し伸べてくれる。
色んな方々と触れ合い・交流することで見えてくるものがある。**